

☆経営理念（和をもって尊しと成す）

本校は、昨年度（平成30年度）学校創立50周年を迎えました。昭和45年4月1日の開校当時、初代教頭：宮城武雄 氏の書面から、琉球政府は学校設置の認可はしたものの、財政が当初の予想に反して大きく落ち込んだということで、校舎建築の補助についてはなかなか認めてくれず、やっとなのおもいで3年間かけて建設完了し、全児童が移転を終了した。

今年度も、学校教育目標「○進んで学習し よく考える子 ○明るく 心豊かな子 ○じょうぶで気力のある子」を柱に、目指す「教師像・学校像・子ども像」を掲げ、その目標により近づき達成するためには、やはり人間力豊かな教師の集団が必要不可欠となってくる。

教師が輝けば、子どもが輝き、学校が輝き、家庭・地域と繋がっていくであろう。わたしは、その教師集団の先頭に立ち、私自身も含め全職員ひとつになり「和をもって尊しと成す」を掲げ、教師を輝かせるため「人間力の高揚」を全面に打ち出し、学校運営を推進する。その手段として、4つのことば（熟語）を軸に遂行にあたる。

1. 和顔愛語（わがんあいご）

いつも穏やかで、親しげな顔つき、そして気持ちのこもった言葉で、「子ども達」「先生同志」「保護者・地域」と接し、「和」を広げる。

2. 率先垂範（そっせんすいはん）

リーダーシップの心得「やって見せ、言ってみせ、させてみせ、褒めてやらねば人は動かじ」をいつも忘れないで、教え導き、褒めることや、気づかせる指導の推進を図る。

3. 師弟同行（していどうこう）

教師と子ども達が、教育の実践をとおして「共に学び合う」「共に励まし合う」ことの大切さを知り、「挨拶されたら返す」、簡単な振る舞いではあるが「教えることの基本」と捉え行動する。

4. 啐啄同時（そったくどうじ）

「子どもに何を学ばせたいのか」「何を身につけさせたいのか」を明確にし、どのタイミングで、どう伝えるかを図る。子どもが「なぜ？」と思った時が「その時」です。そのチャンスとタイミングを大切にします。

以上、理念と方策をもって、全職員共通理解を図り、協働体で推進する。

平成31年4月1日

宜野湾市立普天間第二小学校
校長 桃原 修